

意見

夏季オリンピック 招致について ぜひご意見を!

提言

オリンピックの招致を
考えるキーワード

「札幌の独自性」
「将来的なまちづくり」
「シビックプライド」

皆さん一人一人の声には、
「札幌の未来地図」を大きく変える力と
可能性があります。

北海道大学大学院教育学研究科
(スポーツ社会学) 助教授
おおぬま よしひこ
大沼 義彦さん

夏季オリンピックの招致—この問題を論じることは、札幌の街を見つめ直し、今後のまちづくりを考えることにほかなりません。

激しい招致合戦を勝ち抜くためには、何よりも『札幌の独自性』を世界にアピールする必要があります。身近にいる留学生に札幌の特長を尋ねると、「四季の変化に富む気候と、都市と共存する豊かな自然環境」とのこと。確かに、冷涼な8月の札幌は、屋外競技においては世界随一の舞台を確保できるはず。そうした北国の個性を打ち出していけば、北方圏の国々の後押しも得られるでしょう。また、人類の課題である「環境」を切り口に、新時代のオリンピック像を提案するというのも一案だと思います。

一方、札幌の都市スケールで、夏季オリンピックが本当に開催できるのかといった声もあるようです。メインスタジアムや選手村を新たに建設した場合、成熟期に入った札幌の街では、大会後にそれらを持て余す恐れもあり、『将来的なまちづくり』を見据えた計画の作成が開催の絶対条件となります。

歴史が残した「教訓」を挙げると、1976年のカナダ・モントリオール大会は、市に莫大な負債と、これだけの負債を残すオリンピックの開催都市はもはや現れないのではという不安を世界に残しました。実際、1984年大会にはロサンゼルスしか立候補がなかったほど。ですから、オリンピックの「ゲーム・プラン」(開催計画)だけでなく、街に大きな負債を残さないよう、札幌市の「ライフ・プラン」(まちづくりの計画)も併せて考える必要があるのです。

経済効果や雇用の創出という点も、オリンピックを語る上では欠かせない要素の一つです。しかし、お祭りというものは長くは続きません。オリンピックが街にもたらす最大の財産は、『シビックプライド』(市民の誇り)—なのです。そのことを一番良く知るのは、ほかでもない、冬季オリンピックの開催都市に暮らす市民の皆さんではないでしょうか。

〈写真〉競技場に向かう国際色豊かな観客(提供:共同通信社)

